

一般社団法人環境放射能とその除染・中間貯蔵および
環境再生のための学会（通称：環境放射能除染学会）
第7回定時社員総会

議事次第

令和3年1月29日（月） 13：00～13：30
Webによるオンライン会議（Webツール：Webex）

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 審議説明事項

第1号議案 令和2年度事業報告及び決算報告について

第2号議案 理事の選任について

4. 報告事項

第1号報告 令和3年度事業計画及び収支予算について

第2号報告 第10回環境放射能除染研究発表会について

第3号報告 2021学会賞等の公募と2020学会賞受賞者について

5. 閉会

（配布資料）

- | | | |
|------------|-------|----------------------|
| 1. 資料 1-1 | 第1号議案 | 令和2年度事業報告書 |
| 2. 資料 1-2 | | 令和2年度収支計算書 |
| 3. 資料 1-3 | | 令和2年度貸借対照表および財産目録 |
| 4. 資料 1-4 | | 令和2年度監事監査報告書 |
| 5. 資料 2 | 第2号議案 | 理事の選任 |
| 6. 資料 3-1 | 第1号報告 | 令和3年度事業計画書 |
| 7. 資料 3-2 | | 令和3年度予算書 |
| 8. 資料 3-3 | | （参考）令和3年度予算書内容説明 |
| 9. 資料 4 | 第2号報告 | 第10回環境放射能除染研究発表会について |
| 10. 資料 5 | 第3号報告 | 2021学会賞等の公募について |
| 11. 資料 5-1 | | 2020学会賞受賞者と授賞理由 |

【第1号議案】令和2年度事業報告及び決算について
(令和元年11月1日～令和2年10月31日)

令和2年度事業報告書

1. 登録会員数(令和2年10月31日現在)

個人会員	197名
学生会員	1名
法人会員A	45社
法人会員B	2社
公益会員	4社

※「定款第10条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

(4) 2年以上会費を滞納したとき。」に従い、平成30年度から令和2年度の会費滞納者11名が令和3年度(令和2年11月1日～)より資格喪失となった。

2. 一般社団法人環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会 理事会
及び総会

理事会及び総会を以下の通り開催した。

1) 令和2年度第1回通常理事会(第15回)

日時: 令和元年12月3日(火) 16:00～17:00

場所: ハロー貸会議室新橋I

➤ 審議事項

- ・第1号議案 令和元年度事業報告及び決算について

事務局より議案書のとおり報告が行われ、全員の賛成で承認された。

- ・第2号議案 令和2年度定時社員総会の開催について

議案書のとおり、令和2年度定時社員総会を次のとおり開催することが全会一致で承認された。

日時: 令和2年1月27日(月) 13:30～14:00

場所: ニュー新ホール(ニュー新橋ビル 地下2階)

議題: 第1号議案 令和元年度事業報告及び決算報告について

第2号議案 理事・監事の選任について

第3号議案 次期役員候補について

➤ 報告事項

- ・第1号報告 学会賞等の公募について

12月より、学会表彰の候補者の推薦募集を開始することが報告された。

2) 令和2年度臨時理事会（第16回）

日時：令和2年1月27日（月） 14:00～14:15

場所：ニュー新ホール（ニュー新橋ビル 地下2階）

➤ 審議事項

- ・第1号議案 新役員（代表理事、会長、副会長、副理事長）の選任について
理事の改選に伴い、新たな役員として、代表理事・理事長に森田昌敏氏、会長に大迫政浩氏、副会長に小林正明氏及び塚田高明氏、副理事長に峠和男氏を選出した。
また、田畑日出夫氏を顧問とした。

3) 令和2年度第2回通常理事会（文書による決議）（17回）

令和2年10月26日（月）に議案書を送付し、10月31日までに理事、監事全員から同意書を得た。議案は次の通り。

➤ 審議事項

- (1) 令和3年度事業計画及び収支予算について

➤ 報告事項

- (1) 第9回研究発表会の結果及び第10回研究発表会の予定について
- (2) 第9回研究発表会 優秀発表賞の表彰について
- (3) 令和3年度第1回通常理事会及び定時社員総会の日程について
- (4) 業務執行理事の職務執行状況の報告

4) 令和2年度定時社員総会（第6回）

日時：令和2年1月27日（月） 13:30～14:00

場所：ニュー新ホール（ニュー新橋ビル 地下2階）

➤ 審議事項

- ・第1号議案 令和元年度事業報告及び決算報告について
事務局より事業報告書、収支計算書、貸借対照表および財産目録の報告が行われた後
中川監事より監事監査報告が行われ、全会一致で承認された。
- ・第2号議案 理事・監事の選任について
事務局よりの議案書のとおり理事・監事候補の説明があり、全会一致で承認された

➤ 報告事項

- ・第1号報告 令和2年度事業計画及び収支予算について
令和2年度事業計画書及び収支予算書について報告があった。

3. 講演会活動

➤ 第16回講演会

2020年1月27日（月）に、ニュー新ホール（ニュー新橋ビル地下2階）にて、「汚染土壌対策と環境放射能の影響と防護に関する最新動向」をテーマに開催した。

講演内容は次の通り。（敬称略）

- 講演1) 高濃度セシウム吸着剤の物性と吸着特性 東北大学名誉教授 三村 均
 講演2) 分級分離による土壌中放射性セシウムの実用効果 JESCO 松田和久・今井啓祐
 講演3) 放射線の影響と防護に関する最新の動向 大分看護大学教授 甲斐 倫明

4. 研究発表会

第9回は7月に福島市で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染予防の観点から、開催時期を延期し、Webにより開催した。

➤ 第9回研究発表会の開催状況は次の通り。

実行委員長：佐藤理夫（理事・福島大学）

開催日：令和2年9月3日（木）、4日（金）

開催場所：オンライン開催（Zoom会議システム利用）

- ・研究発表会参加人数：221名（昨年度450名）
- ・研究発表数等：口頭発表：39件、ポスター発表：30件
 （昨年度 口頭発表：54件、ポスター発表：51件）

- ・企画セッション：2件（1件2時間）

- ①「減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク」
- ②「県外最終処分技術開発戦略あり方研究会」第二回成果報告

- ・企業展示：5件、企画展示：3件、広告支援：3件
 （昨年度 企業展示17社、企画展示16団体）

- ・なお、国際シンポジウムは実施を見送った。

※急遽、延期及びWebによる開催としたため、実施に当たり様々な問題が生じたが、実行委員、特に国立環境研究所の皆様のご多大なご協力により無事開催できた。参加人数等は例年に比べて少なくなったが、初めての試みとしては満足のいく結果であった。

5. 表彰（学会表彰・発表賞）

1) 学会表彰

ホームページにて学会賞・学術賞・技術賞・奨励賞・功労賞の推薦募集を行い、表彰委員会によって選定を行った。

《受賞者》

学会賞 米田 稔（京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授）

学術賞 山田一夫氏（国立環境研究所）

技術賞 大林組&ミリオンテクノロジーズ・キャンベラチーム

技術賞 本間健一氏（太平洋セメント㈱）

奨励賞 奥村大河氏（東京大学大学院 理学系研究科・特任研究員）

功労賞 島崎由美氏（いであ株式会社）

（賞状およびクリスタルの盾〈副賞〉を授与）

2) 第9回研究発表会優秀発表賞表彰

第9回研究発表会において選考委員会を設置し、内規に則り最優秀、優秀口頭発表賞および最優秀、優秀ポスター発表賞を選考した。

《受賞者》

最優秀口頭発表賞	桧垣正吾氏ほか1名（東京大学、日鉄セメント㈱）
優秀口頭発表賞	多田光宏、市川恒樹、高橋雄介、吉田健 氏らの4組
最優秀ポスター発表賞	倉持秀敏氏ほか4名（国立環境研究所、農研機構）
優秀ポスター発表賞	坂田紀乃、本間義隆、斉藤智幸、莫嘉麟 氏らの4組

6. ジャーナルの発行

本年度は、vol17 No4 から vol18 No3 までの4巻が発行された。

7. 対外協力

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構が作成・運用を行う、福島第一原子力発電所事故に関する情報検索システム「福島原子力事故関連情報アーカイブ（FNAA）」に第9回研究発表会要旨集の情報を提供し、公開予定。

また、「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会」への参加を継続し情報の交流をしている。

中間貯蔵・環境安全事業株式会社（小林正明社長他）と協力して、減容化・再生利用と復興を考える知のネットワークを構築し、活動を行っている。

8. 分科会活動等

「県外最終処分に向けた技術開発戦略の在り方に関する研究会（通称：県外最終処分技術戦略研究会）」を設置し、除染から最終処分までの全工程の俯瞰と課題の包括的整理、現状の高度減容化技術の調査と整理、到達可能減容化率の試算等に関する調査研究の成果等を踏まえて、県外最終処分に向けた技術開発戦略の在り方について検討を行い、研究成果を取りまとめた。

9. その他

学会業務の効率化を図るため、業務をつくば事務所に集約し、新橋事務所を9月末に閉鎖した。

令和2年度 収支計算書

令和元11月1日から令和2年10月31日

一般社団法人 環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 会費収入				
個人会員会費収入	1,764,000	1,368,000	△ 396,000	
シニア会員会費収入	90,000	99,000	9,000	
学生会員会費収入	9,000	4,500	△ 4,500	
法人A会員会費収入	7,500,000	7,200,000	△ 300,000	
法人B会員会費収入	200,000	200,000	0	
公益会員会費収入	200,000	200,000	0	
② 事業収入				
研究発表会収入	5,000,000	1,341,140	△ 3,658,860	
講演会費収入	250,000	93,000	△ 157,000	
学会誌収入	200,000	148,500	△ 51,500	
既刊テキスト販売	50,000	0	△ 50,000	
受託事業収入	2,900,000	1,557,546	△ 1,342,454	
④ 雑収入				
受取利息収入		151	151	
その他雑収入			0	
その他事業収入			0	
事業活動収入計	18,163,000	12,211,837	△ 5,951,163	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出				
研究発表会支出	5,000,000	1,221,378	△ 3,778,622	
講演会費支出	160,000	146,413	△ 13,587	
学会誌等刊行費支出	2,520,000	2,778,068	258,068	
部会活動費支出	10,000	0	△ 10,000	
受託事業支出	1,641,000	365,624	△ 1,275,376	
② 管理費支出				
人件費支出	3,360,000	3,109,192	△ 250,808	
法定福利費	580,000	481,427	△ 98,573	
福利厚生費支出	10,000	0	△ 10,000	
ホームページ運営費支出	80,000	0	△ 80,000	
会議費支出	120,000	150,250	30,250	
旅費交通費支出	380,000	430,137	50,137	
通信運搬費支出	240,000	557,446	317,446	新橋事務所閉所に伴う運搬費含
消耗品費	370,000	227,296	△ 142,704	
備品費	280,000	151,782	△ 128,218	
事務所費支出	2,180,000	2,490,998	310,998	水/光熱費・家賃 新橋事務所原状回復費用/敷金償却含
支払手数料支出	22,000	18,590	△ 3,410	
業務委託費支出	840,000	630,000	△ 210,000	事務支援費 8月より0円
雑支出	100,000	75,488	△ 24,512	
リース料	200,000	162,664	△ 37,336	
租税公課	70,000	0	△ 70,000	
事業活動支出計	18,163,000	12,996,753	△ 5,166,247	
事業活動収支差額	0	△ 784,916	△ 784,916	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入	0	0	0	
2. 投資活動支出	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
IV 予備費支出	0	0	0	
V 収支差額				
当期収支差額	0	△ 784,916	△ 784,916	
前期繰越収支差額	17,370,508	17,370,508	0	
次期繰越収支差額 *	17,370,508	16,585,592	△ 784,916	

*安定化資金5,000,000円及び10周年記念事業積立金5,000,000円を含む

貸借対照表

令和2年10月31日現在

一般社団法人 環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
(流動資産の部)		(流動負債)	
現金	146,391	未払金	220,000
普通預金	14,431,854	未払費用	420,765
郵便貯金	215,926	前受金	0
前払費用	0	預り金	150,000
未収入金	2,582,186		
流動資産合計	17,376,357	流動負債合計	790,765
(固定資産)		(正味財産の部)	
敷金	0	一般正味財産	16,585,592
固定資産合計	0	正味財産合計	16,585,592
資産合計	17,376,357	負債及び正味財産合計	17,376,357

財産目録

令和2年10月31日現在

一般社団法人 環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的	金額
(流動資産)				
現金		つくば事務所保管	運転資金として	146,391
		東京事務所保管	運転資金として	0
普通預金		普通預金	運転資金として	14,054,320
		三井住友銀行つくば支店		
		普通預金	運転資金として	377,534
		三井住友銀行自由が丘支店		
郵便貯金		普通貯金	運転資金として	215,926
		ゆうちょ銀行		
前払費用				0
未収入金			受託事業のうち済分 研究発表会参加費クレジット 決済分	2,582,186
流動資産合計				17,376,357
(固定資産)				
その他固定資産	敷金	令和2年10/10東京事務所閉鎖	東京事務所	0
固定資産合計				0
資産合計				17,376,357
(流動負債)				
未払金			技術戦略会議報告書印刷代	220,000
未払費用		学会誌支出	人件・交通費等	156,975
		管理費支出	人件・交通費等・地代家賃	263,790
前受金				0
預り金			法人年会費	150,000
流動負債合計				790,765
負債合計				790,765
正味財産				16,585,592

令和2年度監事監査報告書

令和2年11月17日

一般社団法人環境放射能とその除染・
中間貯蔵および環境再生のための学会

監事 申川友夫 

監事 柴田康行 

1. 帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要事項と思われる監査手法を用いて
計算書類の正確性を検討した結果、貸借対照表・財産目録・収支計算書は
会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況および財政状況を正しく
示しているものと認める。
2. 事業報告については、事業報告書の内容は真実であると認める。

【第2号議案】

理事の選任について

清水英樹理事（前田建設工業株式会社）の辞任にともない、補欠（任期は前任者の残存期間）の理事を選任する。

候補者：仁平義祐氏（前田建設工業株式会社）

【第 1 号報告】 令和 3 年度事業計画及び収支予算について
(2020 年 11 月 1 日～2021 年 10 月 31 日)

令和 3 年度事業計画書

1. 登録会員数について

学会の発展と安定的な運営に資するため、会員の増加を目指す。

令和 2 年 11 月 1 日現在の会員数は次のとおり

個人会員： 187 名（学生会員 1 名含む）

法人会員 A： 45 社

法人会員 B： 2 社

公益会員： 4 社

この数を上まわる会員数目標を達成するため、会員の要請に応える事業展開をするとともに、広く関係機関に広報活動を行う。

2. 定時社員総会及び定例理事会

◆定時社員総会

日時 令和 3 年 1 月 29 日(金)

場所 Web 会議

議事 令和 2 年度事業報告及び決算等について 等

◆第 1 回定例理事会

日時 令和 2 年 12 月 16 日(水)

場所 Web 会議

議事 定時社員総会の日程及び議題について 等

◆第 2 回定例理事会

日時 令和 3 年 10 月頃

議事 令和 4 年度事業計画及び収支予算について 等

3. 講演会

年 1 回程度。講演会を開催する。講演会は、研究活動や共同研究事業との連携を図りつつ行うよう努める。

◆第 17 回講演会

令和 3 年度第 7 回定時社員総会に併設して実施

日 時：令和 3 年 1 月 29 日（金） 10 時 30 分～17 時

場 所：Web 会議（Web ツール：Webex）

テーマ：『福島原発事故後の 10 年の歩みと将来展望』

併催 「減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク 会合」

4. 研究発表会

第 10 回研究発表会を福島県福島市において開催予定。

日 時：研究発表：令和 3 年 8 月 25 日(水)、26 日(木)、27 日(金) エクスカーション

国際シンポジウムおよび意見交換・懇親会については今後検討。

場 所：とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）

5. ジャーナルの発行

学会誌の発行については年 4 回を予定。

6. 研究活動等

分野別に各種知見・技術をとりまとめることは学会発足以来の課題となっている。今後、関係機関と連携をしつつ、講演会活動、現地視察研修等を通じて段階的に研究活動を具体化する

また、「県外最終処分に向けた技術開発戦略の在り方に関する研究会（通称：県外最終処分技術戦略研究会）」において、除染から最終処分までの全工程の俯瞰と課題の包括的整理、現状の高度減容化技術の調査と整理、到達可能減容化率の試算等に関する調査研究の成果等を踏まえて、県外最終処分に向けた技術開発戦略の在り方について検討を行う。

7. 関係機関との協力

中間貯蔵・環境安全事業株式会社との「連携・協力に関する協定」に基づき、共同研究の実施、「減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク」の運営等、連携・協力を進める。

また、国立環境研究所との情報交流の強化を図るとともに、関連の企業、NPO 等との情報交流に努める。

一般社団法人 環境放射能とその除染・中間貯蔵及び環境再生のための学会

令和3年度 収支予算書

2020年11月1日から2021年10月31日

単位:円

科 目	令和3年度予算	令和2年度予算	<参考> 令和2年度実績(暫定)
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 会費収入	8,630,500	9,763,000	9,221,500
個人会員会費収入	1,386,000	1,764,000	1,381,500
シニア会員会費収入	90,000	90,000	85,500
学生会員会費収入	4,500	9,000	4,500
法人A会員会費収入	6,750,000	7,500,000	7,350,000
法人B会員会費収入	200,000	200,000	200,000
公益会員会費収入	200,000	200,000	200,000
② 事業収入			
研究発表会収入	5,000,000	5,000,000	1,341,140
講演会参加費収入	100,000	250,000	93,000
学会誌収入	150,000	200,000	148,500
既刊テキスト販売	50,000	50,000	0
受託事業収入	1,410,000	2,900,000	1,370,000
③ 雑収入			
受取利息収入			142
その他雑収入			0
事業活動収入計	15,340,500	18,163,000	12,174,282
2. 事業活動収支の部			
① 事業費支出			
研究発表会支出	5,000,000	5,000,000	1,215,003
講演会費支出	250,000	160,000	146,413
学会誌等刊行費支出	2,520,000	2,520,000	2,697,129
部会活動費支出	80,000	10,000	0
受託事業支出	700,000	1,641,000	392,965
② 管理費支出			
人件費支出	3,020,000	3,360,000	3,075,840
法定福利費	460,000	580,000	511,055
福利厚生費支出	10,000	10,000	0
ホームページ管理・維持費支出	500,000	80,000	0
会議費支出	120,000	120,000	103,500
旅費交通費支出	420,000	380,000	424,487
通信・運搬費	240,000	240,000	233,901
消耗品費	350,000	370,000	224,835
備品費	150,000	280,000	151,782
事務所費支出	600,000	2,180,000	2,404,916
支払手数料支出	20,000	22,000	16,610
業務委託費支出	0	840,000	630,000
雑支出	100,000	100,000	79,054
リース料	100,000	200,000	134,480
租税公課	70,000	70,000	0
事業活動支出計	14,710,000	18,163,000	12,441,970
事業活動収支差額	630,500	0	-267,688
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
2. 投資活動支出			
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
2. 財務活動支出			
IV 予備費支出	0	0	0
V 正味財産期初残高			
当期収支差額	630,500	0	-267,688
前期繰越収支差額	17,102,820	19,721,468	17,370,508
次期繰越収支差額 *	17,733,320	19,721,468	17,102,820

* 安定化基金5,000,000円及び10周年記念事業積立金5,000,000円を含む

令和 3 年度収支予算について (内容説明)

1. 編成の方針

今年度の決算見込みを基に、来年度の変更点及び目標を見込んで積算。

今年度は、若干の赤字が見込まれるが、来年度は、新橋事務所の閉鎖による支出減により黒字となると見込まれる。

2. 収入の概要

- ・会費収入については、決算見込みでは対前年で、個人会員で約 20 万円、法人会員で 45 万円の減収であった。従って、単純に見込むと来年度も会員の減少による減収が避けられないところであるが、入会の勧誘等により会員数の維持を目標として現在の会員数で予算を作成した。
- ・研究発表会収入については、今年度、Web 会議としたため、収入、支出とも大幅に減少している。来年度は福島での開催を予定しているため、今年度予算と同じ 500 万円とした。
- ・講演会参加費収入は、今年度、開催回数を 1 回とした。来年度も 1 回の予定であり、Web 会議の予定なので減額した。
- ・学会誌収入は広告が主であり、現在の収入を維持するように設定した。
- ・受託時事業は今年度よりの継続事業があるが、来年度も追加の受託を見込み、今年度実績とほぼ同程度の額とした。

3. 支出の概要

- ・研究発表会支出については、今年度予算と同じ 500 万円とし、研究発表会の収支均衡を目指すこととした。
- ・講演会費支出は、1 回分を計上した。また、Web 会議でシステムの委託を加味し増額した。
- ・学会誌等刊行費支出は、節約を見込むことにより少し決算見込みより減額した。
- ・事業費支出は事業費収入の規模に見合った額とした。
- ・管理費支出については減額を見込んだ。
- ・人件費は担当職員の交代に伴い減額した。
- ・ホームページ管理・維持費支出については、今年度実績はないが、サーバーの変更等が予定されているため、50 万円を計上した。
- ・新橋事務所閉鎖に伴い、備品費、事務所支出、リース料を減額した。
- ・業務委託費支出が不要となった。
- ・租税公課については、法人税の最低額を計上した。

【第2号報告】第10研究発表会について

1. 第10回研究発表会

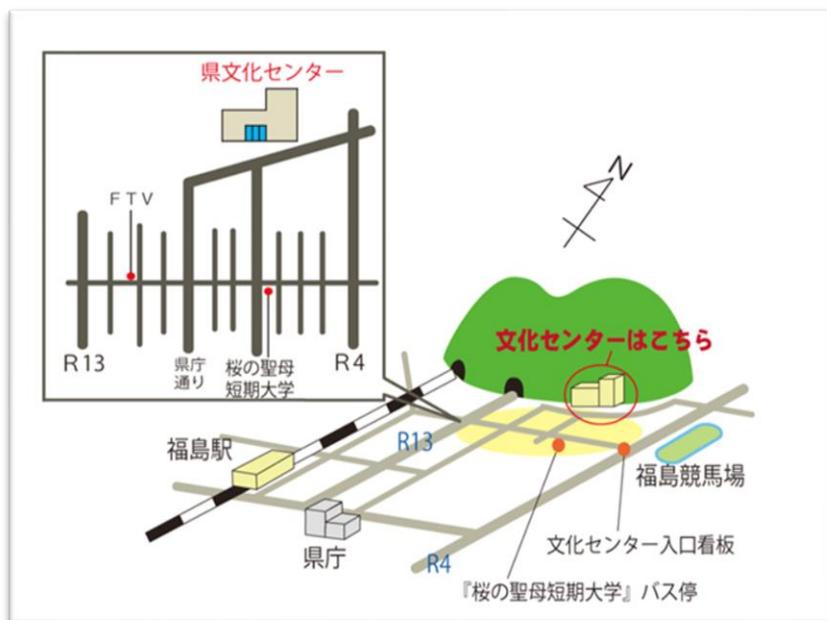
実行委員長：大迫政浩（会長・理事：国立環境研究所）

開催予定日：令和3年8月25日（水）、26日（木）、27日（金）エクスカージョン

開催場所：福島県福島市「とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）」

大ホール、小ホール、2階展示室

※いわき中央公民館を調査したがコロナ禍により入場員数の制限があり断念



【第 3 号報告】

学会賞等の公募について

学会賞・学術賞・技術賞・奨励賞・功労賞について、下記のとおりホームページにて推薦を募集する。また、同内容の記事を令和 2 年 1 2 月発行予定のジャーナル (V8N4) に掲載する。

学会表彰候補者推薦募集について

環境放射能除染学会は、より一層環境保全の進展に寄与することを目的として、表彰規定に基づき、下記のとおり学会表彰の各賞候補者推薦の募集を開始します。

I 賞の種類等：今回推薦を募集するのは学会賞、学術賞、技術賞、奨励賞、功労賞の 5 つの賞です。

- ① **学会賞**：本学会の発展に貢献もしくは環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する分野において特に優れた功績を認められた個人、法人、または団体・グループに贈呈。
- ② **学術賞**：環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する学術研究において、顕著な貢献があると認められる個人、法人、または団体・グループに贈呈。
- ③ **技術賞**：環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する対策技術等に関して顕著な貢献があったと認められる個人、法人、または団体・グループに贈呈。
- ④ **奨励賞**：環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する一連の論文、著作等、学術的研究成果が特に優れた若手研究者に贈呈。授賞対象者は概ね 45 歳以下の者とする。
- ⑤ **功労賞**：環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する分野において科学・技術の進歩発展及び環境の改善ならびに本学会の発展に、著しく貢献した個人、法人、または団体・グループに贈呈。

II 応募方法：所定の推薦書（ホームページよりダウンロード）に記入の上学会事務局 (office@khjosen.org) までメールにてお送りください。

III 選定方法：皆様よりご推薦いただきました候補者のなかから、表彰委員会が受賞候補者を選定し本学会の会長が理事会に報告、理事会の了承を得たうえで受賞者を決定します。

IV 表彰方法等：各賞受賞者へは、賞状及び副賞を授与することとし、会長が研究発表会開催期間中に表彰するとともに、本学会誌及びホームページに掲載発表いたします。

IV 各賞候補者推薦締切：2021 年 3 月 31 日

一般社団法人 環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会
2020 学会賞受賞者と授賞理由

【学会賞】 米田 稔 氏 (京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授)

米田氏は環境放射能の権威であるが、当学会発足当初より理事として学会運営に携わっていただき、また第2代学会長に就任していただいた。第8回環境放射能除染研究発表会では実行委員長として開催を主導された。更には、学会誌の発行にあたって編集委員として学術誌の質の向上に貢献するなど多大の貢献をされた。

【学術賞】 山田 一夫 氏 (国立研究開発法人 国立環境研究所)

山田氏は放射性セシウムで汚染された土壌の除染や保管に関連して、高性能のセシウム保持体の開発、遮断型最終処分場のコンクリートのひび割れリスクの回避や減容化技術の評価などで、幅広い分野にわたっての除染や貯蔵・再利用に向けて技術開発を先導してきている。

【技術賞】 大林組&ミリオンテクノロジーズ・キャンベラチーム

複数個の大型土のう袋のそれぞれの放射能濃度を積載したままの状態で、同時に精度良く測定できる技術を実用化した。本技術は除去土壌の他にも、可燃物やコンクリート等の様々な内容物の放射能濃度測定が可能であり、将来発生するであろう放射性廃棄物の処理処分においても広く活用展開が見込まれる。

本間 健一 氏 (太平洋セメント株式会社)

本間氏は乾式熱処理のプロセスで、放射性セシウムを除去する技術の開発に注力してこられた。添加剤を用いることにより、数万 Bq/kgの放射性セシウム汚染土をクレアランスレベルである 100Bq/kg 以下に低下させる技術の開発に成功した。

【奨励賞】 奥村 大河 氏 (東京大学大学院 理学系研究科・特任研究員)

奥村氏は福島原発事故により環境中に放出した放射性微粒子の構造とその諸特性の解明に尽力された。特にセシウムボールについて電子顕微鏡を用いた形態解明と組成分析についても優秀な成果をあげている。

【功労賞】 島崎 由美 氏 (いであ株式会社)

島崎氏は、本学会設立当初から学会運営、経理関係での指導と実務に労を惜しむことなく支援をしていただいた。研究発表会開催においては、研究発表募集と採否による質の維持、さらにはプログラム・要旨集の編集、事務局の事務支援、発表会や表彰式の運営や司会など、多くのご支援をいただいた。その御苦勞に感謝して功労賞を賞するものである。